



Rafael LOZANO-HEMMER

ラファエル・ロサノ＝ヘメル

1967年メキシコシティ生まれ。カナダ、モントリオールおよびスペイン、マドリード在住。90年代後半以降、自ら「リレーショナル・アーキテクチャー」と呼ぶ、都市空間におけるインタラクティブな大規模プロジェクトを世界各地で数多く手がける。受賞多数。各都市の背景に言及しつつも、インターネットに接続された公共空間を「コラボレーティブ・プラットフォーム」として開放、人びとはそこに自由に関わることで都市や他者との関係を変容させていく。またときにはアーティストの意図を超えた体験を参加者が生み出すことが期待される。インターネット経由で世界中から送られたデザインが、サーチライトの非物質的〈建築〉として実現された〈ベクトリアル・エレベーション〉(メキシコシティ、1999-2000)、公共空間が開放的な影絵のステージと化した〈ボディ

ー・ムービーズ〉(ロッテルダム、2002)、都市を飛び交う無線を参加者が自らの影によって音へと変換する〈フリクエンシー・アンド・ボリューム〉、強力なプロジェクターを使用してオーストリアのリンツ市内で行われたゲリラ的プロジェクトの記録〈1000のプラティテュード〉など、いずれも都市のもつ潜在性を人びとが新たに使いこなし発見するためのものである。2003年には山口情報芸術センターで新作〈アモータル・サスペンション〉を実現、携帯電話、インターネットを介して送信されたテキスト・メッセージがサーチライトの点滅へと変換され、再度メッセージへと変換されるこのプロジェクトは、光の美しさとともにコミュニケーションの別のあり方を示唆するものとなった。[四方]



フリクエンシー・アンド・ボリューム、リレーショナル・アーキテクチャー-9 2003
対話式ラジオ周波数スキャナー アルテ・アラメダ研究所(メキシコシティ)で初演



1000のプラティテュード 2003 モンタージュ写真、ビデオ・プロジェクター投影
リンツ市内で実施されたプロジェクションの記録。作品としての初展示はビットフォーム・ギャラリー(ニューヨーク)で行われた

前ページ—アモータル・サスペンション、リレーショナル・アーキテクチャー-8 2003 公共空間でのインタラクティブ・インスタレーション。
www.amodal.netにアクセスすることで、山口情報芸術センターでの光のインスタレーションに参加できた。2004年現在、3Dのメッセージ・アーカイブが稼働中。また新たにメッセージを入力して光の点滅シミュレーションを体験できる